

令和6年度 TGUISS校内研究のまとめ

研究テーマ

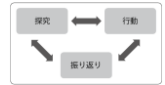
IB教育の理念に基づく、概念的
理解を志向した教科の枠に閉じない学び
ー現代的諸課題に向き合える生徒の育成ー

東京学芸大学附属国際中等教育学校
研究部

1

校内研究の方法・目的

- IB教育の「探究⇄行動⇄振り返り」
を活かした実践をする



- 教職員の新たな学びと適合した実践をする



- 研究グループ制度の更なる発展を目指す

2

校内研究の枠組み

- 同一学年異教科の研究グループ制度
 - SSH第2期から継続して実施
- 概念や概念的
理解を共有して、生徒が
学習を転移することを意図する。
- 異教科の教員が協働することの意義に、
「**熟達した初心者**」として授業開発に携わ
ることがある

3

研究グループ

グループ	テーマ・公開研究会での実施授業・メンバー
1学年 (中学1年)	概念「 ものの見方 」を主軸にした教科等横断的な取り組み 公開授業1 国語(竹取物語) 公開授業2 国際教養(総合的な学習の時間に相当する) メンバー: 国語・理科・保健・芸術・英語・技術・養護
2学年 (中学2年)	見えない 関係性 を可視化する ー数値化と言語化に着目してー メンバー: 国語・理科・保健・保健・英語・英語・英語・養護
3学年 (中学3年)	生徒が主体的に学びを転移させる授業デザインと実践(関係性) 公開授業 数学(モデルを表すこと) メンバー: 国語・社会・数学・理科・保健(道徳・総合・特活)・英語
4年 (高校1年)	変化 に着目して事象の振る舞いを捉えようとする生徒の育成 公開授業 SS数学A(数例) メンバー: 国語・数学・数学・理科・保健・情報

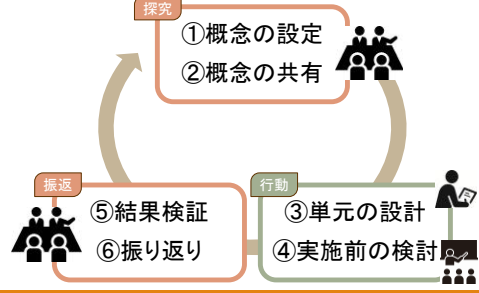
4

研究グループ

グループ	テーマ
5学年 (高校2年)	情報を吟味し、解釈・評価できる批判的思考力の育成1(ものの見方) 公開授業 SS化学基礎(酸と塩基) メンバー: 地歴・数学・理科・保健・英語・家庭
6学年 (高校3年)	時間・場所・空間 の概念を通して自分の位置を探究する -生徒の視座を高める単元設計- 公開授業1 世界史探究(探究主題と探究方法の設定) 公開授業2 古典探究(古人の「知」に迫る) メンバー: 国語・地歴・地歴・数学・数学・理科
DP (高校2年)	共通の概念に対してそれぞれの学問分野はどのように理解を深めているの のだろうかー「 正当化 」を例にー 公開授業1 DP文学 漫画の分析・解釈を通して捉える「正当化」の概念 公開授業2 DP化学 個人研究実践から捉える「正当化」の概念 メンバー: 国語・国語・数学・理科・芸術・英語・英語
国際教養	国際教養のATLラベリング メンバー: 地歴・地歴・地歴・英語

5

校内研究の進め方



6

校内研究の進め方

探究

①概念の設定
②概念の共有

Teamsを活用して、校内研究を進めた

7

校内研究の進め方

探究

①概念の設定
②概念の共有

“異教科同一学年”研究グループについて

振返

5月に実施した校内研修の資料

8

校内研究の進め方

思考する教室をつくる
概念型探究の実践

9月に紹介した書籍の例

振返

⑤結果検証
⑥振り返り

行動

③単元の設計
④実施前の検討

9

校内研究の進め方

3学年グループ研究紀要より(概念の設定)

振返

⑤結果検証
⑥振り返り

③単元の設計
④実施前の検討

11月

10

単元設計・授業開発の結果

- 「概念」の扱いは教科・科目の文脈に依存するので、同じ「概念」を扱っても焦点の当たり方が異なる。「概念的理解」も同様。
-
- 1学年グループの研究紀要より「ものの見方」のイメージ
- 異なっているものを扱っているよう見える。

11

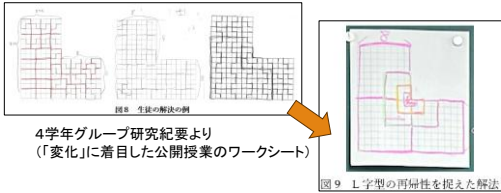
単元設計・授業開発の結果

- ①の前段階として、年間計画が重要
⇒グループで設定した概念によっては、年間指導計画の変更が必要になる場合がある。
- ③、④は個人にかかる負担が大きい
⇒単元計画や授業開発の原案作成
- 国際教養との連携で、統合した実践も可能

12

生徒の変化と評価

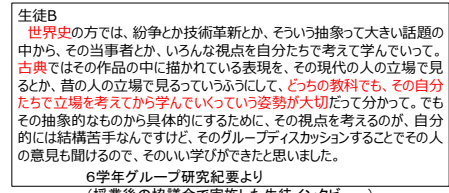
- 共通した概念や概念的理解を設定した単元設計や授業実施の評価方法
- 授業中のワークシート



13

生徒の変化と評価

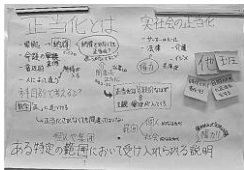
- 共通した概念や概念的理解を設定した単元設計や授業実施の評価方法
- 授業直後に実施したインタビュー



14

生徒の変化と評価

- 共通した概念や概念的理解を設定した単元設計や授業実施の評価方法
- 生徒を交えた協議会

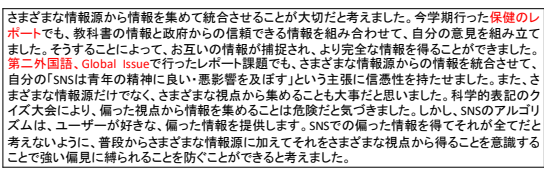


DPグループの研究紀要より
(授業後の協議会で実施したグループワークの成果物)

15

生徒の変化と評価

- 共通した概念や概念的理解を設定した単元設計や授業実施の評価方法
- 単元の振り返りにおける記述



16

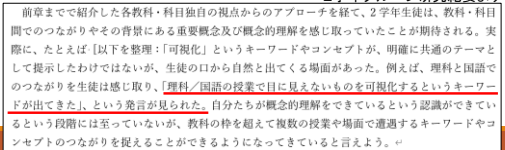
教員の学びと成果

- 他の教科・科目における「概念」の扱いを知るにより、「概念」の多角的な理解が進んだ
- 教員の視座の高まりを実感できた。
⇒教員の学びは、生徒の学びと相似であり、多くの生徒が視座の高まりを実感できたと期待したい。
- 教科教育の観点を盛り込んだ成果は、各研究グループが作成した研究紀要を参照。

17

教員の学びと成果

- 他の教科・科目における「概念」の扱いを知るにより、「概念」の多角的な理解が進んだ
- 教員の視座の高まりを実感できた。
⇒教員の学びは、生徒の学びと相似であり、多くの生徒が視座の高まりを実感できたと期待したい。



18

生徒 G

授業を受けたときは正直、「数学と美術のつながりなんてあるのかな?」「なぜわざわざそれらをつなげるんだろう?」と思っていた部分もあったんです。でも、授業の一端として実際に取り組んでみたら意外と面白かった。ただ、日常生活の中でそれを意識することはあまりないかな、とも思っていました。ただ、六年生になって世界史の授業を受けてみると、幾何学模様を取り上げる場面があって、「これって数学と美術のつながりだな」と思うことができました。そういうふうに、過去に学んだことと今習っていることのつながりを、六年生になって改めていろいろな授業で発見する場面が増えてきたなと感じています。

そういった過去の学びを総括が、今になってようやくつながりが見えてきたのかなと思います。それから、自分の中でそれを意識的に活かせるようになったきっかけとしては、ちょうど今、私たちは大学入試を控えていて、まだ途中ではあるもののエッセイを書く機会があることが大きいんです。そのエッセイの一つに「高校生活で学んだ授業内容を、授業内や企業などの社会の場でどのようにつながれたか」というテーマがあって、私はそれを地理という視点から書いています。地理の学びを通して、「何事にも必ず根拠があり、その根拠を理解することで人と人、あるいは要素と要素のつながりが見えやすくなる」という考え方を得ました。これはさまざまな場面に活用できるのではないかと感じています。実際に、授業で学んだ内容をさらに概念レベルまで噛み砕いて理解できれば、さまざまな物事との結びつきを見いだしやすくなるのではないかと感じています。

6年生グループ研究紀要より
学習の転移に関する問いかけに対する生徒の回答。
概念的理解を志向した教科間連携の取り組みと、生徒の得た学びの事例

19

今後の展望

国際教養グループ研究紀要より

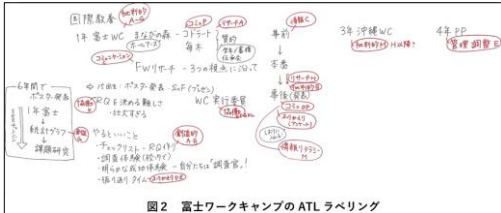


図2 富士ワークキャンプのATLラベリング

- 国際教養(総合的な探究の時間等)と授業との関係を省察していく。

21

まとめ

- 同一学年異教科の研究グループ制度をさらに発展させるための示唆を得た。
- 同一学年異教科の研究グループ制度が、教員研修としても意義があることが認められた。
- 概念的理解を志向した授業の取り組みの成果は、生徒の姿に表出される。
- 国際教養(総合的な探究の時間等)の取り組みを省察する必要性がある。

23

今後の展望

- 学習の転移を見取る手段として、授業後のインタビューや協議会、評価課題や多様な活動が候補。さらに研究する余地がある。
- ③や④での協働性を高め、研究グループの持続可能性を高める必要がある。
- 国際教養(総合的な探究の時間等)と授業との関係を省察していく。

20

今後の展望

1年生生徒作成のポスター

図2 富士ワークキャンプのATLラベリング

図2 富士ワーク

国際教養(総合的な探究の時間等)と授業との関係を省察していく

富士ワークキャンプのポスターは、1年生生徒が作成したもので、富士ワークキャンプの概要、目的、日程、参加者、評価方法などを詳しく説明しています。ポスターのデザインは、色とりどりのイラストや写真が豊富で、視覚的に訴える力があります。また、各項目の解説が丁寧で、参加者の理解を深めるのに役立つ情報が満載です。

22